

Requested Patent: JP2002007780A
Title: METHOD FOR ELECTRONIC COMMERCE ;
Abstracted Patent: JP2002007780 ;
Publication Date: 2002-01-11 ;
Inventor(s): SHIRAISHI KEIICHI ;
Applicant(s): SHIRAISHI KEIICHI ;
Application Number: JP20000313233 20001013 ;
Priority Number(s): ;
IPC Classification: G06F17/60 ;
Equivalents: ;

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for electronic commerce, utilizing the characteristic of an article having the characteristic of a market price being fixed uniquely by specifications and quality, such as diamond.
SOLUTION: A market, in which wholesale companies, retail companies and users participate, is constructed over a network. An intermediation center registers the selling and purchasing desires of participants, who are desirous of selling or purchasing the article with the hierarchical kind of the participant and the specifications and quality information of the article to match these selling desires and the purchasing desires.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-7780

(P2002-7780A)

(43)公開日 平成14年1月11日(2002.1.11)

(51)IntCl. ⁷	識別記号	F I	キーワード(参考)
G 0 6 F 17/60	3 1 4	G 0 6 F 17/60	3 1 4 5 B 0 4 9
	Z E C		Z E C
	3 0 2		3 0 2 A
	3 1 6		3 1 6
	3 1 8		3 1 8 H

審査請求 有 請求項の数10 O L (全 16 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2000-313233(P2000-313233)

(22)出願日 平成12年10月13日(2000.10.13)

(31)優先権主張番号 特願2000-115227(P2000-115227)

(32)優先日 平成12年4月17日(2000.4.17)

(33)優先権主張国 日本(J P)

(71)出願人 598158912

白石 啓一

大阪府吹田市原町1-5-19

(72)発明者 白石 啓一

大阪府吹田市原町1-5-19

(74)代理人 100074561

弁理士 柳野 隆生

Fターム(参考) 5B049 BB11 BB36 CC05 CC08 DD01

DD05 EE01 FF03 FF04 FF09

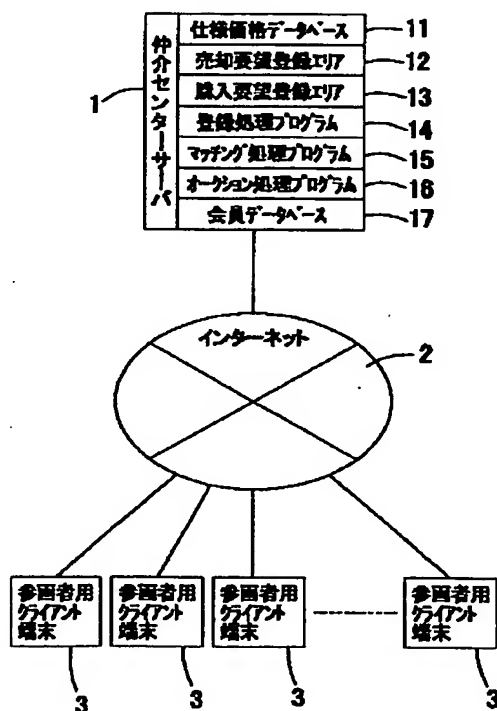
GG04 GG07

(54)【発明の名称】 電子商取引方法

(57)【要約】

【目的】 ダイヤモンドのような、仕様および品質によって市場価格が一義的に定まる特性を有する物品の、特性を生かした電子商取引方法を提供しようとするものである。

【構成】 卸売業者、小売業者、およびユーザが参画するマーケットをネットワーク上に構築し、仲介センターが、物品の売却および、または購入の要望を有している参画者の、売却、購入要望を、その参画者の階層種別とその物品の仕様および品質情報とを伴わせて登録し、これらの売却要望と購入要望とのマッチングを図る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 仕様および品質に基づいて、市場価格が一義的に定まり、その価格変動幅が小さい物品の電子商取引方法であって、

商品流通の上流から下流に至る過程において、中間階層に位置する小売業者、この小売業者より商取引において上流階層に位置する卸売業者、および、前記小売業者より商取引における下流に位置する一般消費者としてのユーザの、異階層に属するメンバーが、それぞれ参画者として共に商取引のアクセス権を有するマーケットがネットワーク上に構築され、

前記各参画者に対して利害関係上中立的立場にある仲介センターが設立され、

この仲介センターが、物品の売却および、または購入の要望を有している前記参画者の、売却要望および、または購入要望を、その参画者の階層種別とその物品の仕様および品質情報とを伴わせて登録を受け付けると共に、商取引慣習上認められる階層間以外の前記商取引を規制しつつ、登録された売却要望と購入要望とのマッチングを図ってなる電子商取引方法。

【請求項2】 前記商取引慣習上認められる前記階層間商取引として、前記卸売業者から前記小売業者への前記商取引、前記小売業者から前記ユーザへの前記商取引、および、前記ユーザから前記卸売業者への前記商取引の形態が設けられていると共に、前記商取引慣習上認められる前記階層間以外の前記商取引を仲介するため、前記卸売業者から一旦購入した上で前記ユーザへ売却するための前記小売業者の役割を担う、あるいは、前記ユーザから一旦購入した上で前記小売業者へ売却するための前記卸売業者の役割を担う、前記仲介センターの付属店舗が、前記ネットワーク上に設けられてなる請求項1記載の電子商取引方法。

【請求項3】 不良在庫処分のため、前記卸売業者間、および、または、前記小売業者間の前記商取引の形態が設けられてなる請求項1または請求項2記載の電子商取引方法。

【請求項4】 前記仲介センターに、予め前記物品の仕様および品質に基づき決定された前記各階層毎の価格データベースが備えられ、

前記登録に先立って、2段階の価格提示が行われ、

その内の第1の価格提示は、売却要望参画者の申告による仕様および品質に基づき、前記価格データベースを参照することにより行われ、

第2の価格提示は、売却要望参画者の提供する現物品の鑑定により判明した仕様および品質に基づき、前記価格データベースを参照することにより行われ、

前記各価格提示の後、売却または不売却を選択させてなる請求項1から請求項3のいずれか1項に記載の電子商取引方法。

【請求項5】 前記各階層毎の価格データベースに代え

て、予め前記物品の前記仕様および前記品質に基づき決定された基本価格データベースと前記各階層毎の価格指数が設けられ、前記各階層毎の価格が、前記基本価格データベースの基本価格データに前記価格指数を乗ずることにより求められてなる請求項4記載の電子商取引方法。

【請求項6】 前記第1の価格提示の際に、前記第1の価格提示を識別する識別情報を提示すると共に、前記第2の価格提示に至る以前であれば、前記識別情報を基に前記第1の価格提示と同内容の再提示が要求されると、この再提示を行なってなる請求項4または請求項5記載の電子商取引方法。

【請求項7】 前記第2の価格提示のための、前記現物品の前記提供を前記売却要望参画者に指示する際に、前記現物品の確実な返却、または、売却までの確実な保管を担保するため、エスクロサービスの使用を指示してなる請求項4から請求項6のいずれか1項に記載の電子商取引方法。

【請求項8】 前記不売却が検知されると、不売却理由を入力を要求してなる請求項4から請求項7のいずれか1項に記載の電子商取引方法。

【請求項9】 前記マッチングが取れない前記売却要望に対し、特定の階層を対象とした第1のオークションと、その階層よりも下位の階層を対象とした第2のオークションを設けてなる請求項1から請求項8のいずれか1項に記載の電子商取引方法。

【請求項10】 前記物品をダイヤモンドとした請求項1から請求項9のいずれか1項に記載の電子商取引方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は電子商取引方法に関する。

【0002】

【従来の技術】成人女性の40パーセントがダイヤモンドを用いた指輪や、ブローチ、ネックレス等の宝飾品を所有していると言われているが、これらの個人が購入したダイヤモンドを使用した宝飾品は、一般に高価であるところから、高い財産的価値が認められている。そこで、ダイヤモンドを用いた宝飾品を財産として所有する人も多く、これらの人の中には、所有するダイヤモンドの換金を希望する人もかなりいるものと思われる。また、年間20万組を超える離婚件数が報告されており、これらの大半が、不要になったダイヤモンドを保有していると見られ、換金を希望している人も多いと思われる。しかしながら、実際に換金しようとすると、質屋以外にダイヤモンドの換金手段がないのが実情である。他方、質屋に流れたダイヤモンドは、すぐにダイヤモンドの小売業者や卸売業者に還流されるのではなく、アンガラ組織の操るブラックマーケットを通してしか還流され

ないのが実情である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】そこで、ダイヤモンドの換金を希望する人は、質屋を利用せざるを得ないが、質屋を利用する場合、その暗いイメージゆえに利用しづらい点もさることながら、質屋には正式なダイヤモンドの鑑定資格を持った人が少なく、ダイヤモンドの財産的価値を適正に評価することができないのが一般であり、財産的価値が高いにもかかわらず、換金に際しては著しく低くしか価格評価されないのが現状である。また、質屋からブラックマーケットを介して小売業者や卸売業者に還流されるダイヤモンドは、アングラ組織の資金源に利用されている節もあり、その価格評価は適正になされていないのが実情である。

【0004】ところで、宝飾品に使用されるダイヤモンドは、世界的な流通ルートが整備されており、カット、カラー、クラリティ、カラット等のダイヤモンドの仕様および品質によって市場価格が定まり、その変動幅も非常に小さく、価格が安定している特徴がある。また、ダイヤモンドは硬くて傷がつきにくいことから経年変化がほとんどなく、普通の商品がいったん消費者の手に渡って使用された後は、中古品としてその価格は購入当初と比べて著しく低くしか評価されないのに対して、ダイヤモンドの場合は、中古品という概念が当てはまらず、例えば、指輪のリング部分のようなダイヤモンド以外の部分は別として、ダイヤモンドそのものは新品と中古品の区別はされていない。

【0005】このようなダイヤモンドの持つ特性から、ダイヤモンドの財産的価値は時間の経過と関係なく維持されているにもかかわらず、換金するとすると上述のように著しく低い価格評価しかされず、ダイヤモンドの特性に応じた、適正な換金方法ないしマーケットの創造が望まれている。また、卸売業者と小売業者との取引は、電話やファクシミリでの受発注であり、取引相手も限られた狭い市場でなされているが、この点を解決すべく、広範囲で容易且つスムーズな取引が可能で、物品に対する評価が正しく行われ、且つ、商取引慣習にも配慮し、また、アングラ組織の操るブラックマーケットを排除した、マーケットの創造が望まれている。そこでこの発明は、このような要望に対してなされたものであって、ダイヤモンドのような、仕様および品質によって市場価格が一義的に定まる特性を有する物品の、特性を生かした電子商取引方法を提供しようとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、下記のような電子商取引方法である。即ち、仕様および品質に基づいて、市場価格が一義的に定まり、その価格変動幅が小さい物品の電子商取引方法であって、商品流通の上流から下流に至る過程において、中間階層に位置する小売業者、この小売業者より商取引において上流階層に位置す

る卸売業者、および、前記小売業者より商取引における下流に位置する一般消費者としてのユーザの、異階層に属するメンバーが、それぞれ参画者として共に商取引のアクセス権を有するマーケットがネットワーク上に構築され、前記各参画者に対して利害関係上中立的立場にある仲介センターが設立され、この仲介センターが、物品の売却および、または購入の要望を有している前記参画者の、売却要望および、または購入要望を、その参画者の階層種別とその物品の仕様および品質情報とを伴わせて登録を受け付けると共に、商取引慣習上認められる階層間以外の商取引を規制しつつ、登録された売却要望と購入要望とのマッチングを図ってなる電子商取引方法である。

【0007】この電子商取引方法は、例えば、インターネット等の情報ネットワーク上に設けられたサーバに、商取引の仲介センター機能を備えさせるものであって、この電子商取引方法では、取引の対象となる物品の市場価格がその物品の仕様および品質に基づいて一義的に定まるので、仕様および品質にのみ基づいて商取引を行うことが可能である点に注目して、仲介センターが、仕様および品質情報に基づいて、売却要望と購入要望とのマッチングを図るものである。即ち、売却または購入要望の物品の仕様および品質を伴わせてこれらの売却要望と購入要望とを別々に仲介センターに登録し、仲介センターがこれらの登録を検索して、登録された物品の仕様および品質が同じものの売却要望と購入要望との存在が判明すれば、その間の売買を成立させるものである。この方法では、物品の仕様および品質にのみ基づいてその物品の価格が定まるため、一般消費者であるユーザが売却要望者であっても、売却の価格が、物品の仕様および品質にのみ基づく適正な価格に維持されるので、質屋を利用した場合に著しく低くしか価格評価されないのと比べると、有利に売却でき、この方法はユーザにとってメリットの大きい取引方法といえる。

【0008】また、取引市場においては、取引規模等によって、卸売業者、小売業者、ユーザの3種類の階層が存在し、この電子商取引方法では、インターネット等の情報ネットワーク上に設けられたマーケットに、これらのどれかの階層に属するメンバーが、それぞれ参画者として参加する形態としている。売買は、特殊な場合を除いて、通常、これらの階層間で行なわれ、しかも、これらの階層間の売買は、商取引慣習上、売買の相手先が特定の階層に限定されている。即ち、通常の取引としては、売却は、卸売業者から小売業者への卸売と、小売業者からユーザへの小売とに分けて行われることが遵守されており、価格もこれらの売却ルートによって異なる価格が設定されている。そこで、本発明の電子商取引方法においても、商取引慣習を遵守するために、この仕組みを反映することが必要であるが、本発明の電子商取引方法では、売却要望および購入要望の登録を受け付ける際

に、これらの要望者の階層種別も同時に合わせて登録するので、この階層種別に基づき売却ルートを設定でき、上記の商取引慣習の遵守を維持することが出来る。尚、本発明では、ユーザから卸売業者へのユーザ売りという取引形態も想定している。

【0009】また、この電子商取引方法は、例えば、インターネット等の情報ネットワーク上に設けられたサーバに、商取引の仲介センター機能が備えられ、この情報ネットワークに参画してサーバにアクセスすることによって、誰でも容易に且つスムーズな取引が可能で、そのため多くの人が参画したネットワークの構築が出来るので、広範囲に渡る取引が可能となる。

【0010】上記の電子商取引方法において、仲介センターの付属店舗を設けると共に、商取引の形態を具体的に次のように特定した上で設定してもよい。即ち、上記の電子商取引方法において、前記商取引慣習上認められる前記階層間商取引として、前記卸売業者から前記小売業者への前記商取引、前記小売業者から前記ユーザへの前記商取引、および、前記ユーザから前記卸売業者への前記商取引の形態が設けられていると共に、前記商取引慣習上認められる前記階層間以外の前記商取引を仲介するため、前記卸売業者から一旦購入した上で前記ユーザへ売却するための前記小売業者の役割を担う、あるいは、前記ユーザから一旦購入した上で前記小売業者へ売却するための前記卸売業者の役割を担う、前記仲介センターの付属店舗を、前記ネットワーク上に設ける方法である。

【0011】上記の方法によれば、商取引慣習上認められる階層間商取引を明確にすることができ、且つ、商取引慣習を遵守しつつ、商取引慣習上認められる階層間以外の商取引を仲介することができるので、商取引慣習を遵守する姿勢を参画者に与えることができ、上記の電子商取引方法による商取引に信頼感を与えることができる。また、売却要望と購入要望とのマッチングがすぐに取れない場合に、とりあえず、仲介センターの付属店舗が売却を受けておくこともでき、参画者の要望に広く応えることができる。

【0012】また、上記の方法に、不良在庫処分に対処する取引形態を加えてもよい。即ち、上記の電子商取引方法において、不良在庫処分のため、前記卸売業者間、および、または、前記小売業者間の前記商取引の形態を加える方法である。

【0013】上記の方法によれば、不良在庫処分に対処するという条件付で、卸売業者間、および、または、小売業者間の商取引を認めるので、この商取引における価格等を、上記条件に合わせることで、同階層間の商取引であっても商取引慣習に反しないようにすることができると共に、上記の電子商取引方法に柔軟性を与えることができる。

【0014】また、より優れた電子商取引方法とするた

めに、上記の方法に次の方法を付け加えることが推奨される。その方法は、前記仲介センターに、予め前記物品の仕様および品質に基づき決定された前記各階層毎の価格データベースが備えられ、前記登録に先立って、2段階の価格提示が行われ、この内の第1の価格提示は、売却要望参画者の申告による仕様および品質に基づき、前記価格データベースを参照することにより行われ、第2の価格提示は、売却要望参画者の提供する現物品の鑑定により判明した仕様および品質に基づき、前記価格データベースを参照することにより行われ、前記各価格提示の後、売却または不売却を選択させる方法である。

【0015】この方法では、仲介センターに、予め前記物品の仕様および品質に基づき決定された各階層毎の価格データベースが備えられており、例えば売却を要望する参画者がユーザの場合、ユーザが売却要望を登録するのに先立って、仲介センターが価格データベースを参照することにより、2段階の価格提示を行うものである。即ち、確かに、本発明の電子商取引方法では取引の対象となる物品の市場価格がその物品の仕様および品質に基づいて一義的に定まるので、いちいち価格提示をしなくても、適正でない価格付けがなされることは無い。しかし、価格は商取引の重大要素であり、特に素人であるユーザは物品に関する知識が少なく、その物品の価格に関する知識も少ないのが一般であるから、ユーザの売却に対しては、仲介センターがユーザの売却できる価格を明確に提示する必要がある。また、ユーザが売却するか否かを決めるにあたって、最も重要な要素は売却価格であることは言うに及ばないが、売却価格を知るために、例えば、ダイヤモンド等の物品を予め仲介センターに送るのは非常に煩雑であるほか、ダイヤモンド等の物品は高価なものであることから危険も伴い、このような煩雑で危険な手間をかけること無しに、売却価格が分かれば、ユーザにとって好都合である。

【0016】そこで、まず売却するか否かの目安をユーザに判断してもらうために、参画者であるユーザが申告した仕様および品質に基づき、仲介センターがその備える価格データベースを参照して、第1の価格提示を行う。そしてこの第1の価格提示でユーザが売却すると決定しても、当該物品が申告通りの仕様および品質を有することが客観的に確認されなければ、先の価格が適正なものとは断言できないことから、物品に対する評価を正しく行うために、次の段階で参画者であるユーザから売却を要望する物品を提供してもらい、この物品の鑑定人による鑑定を行い、その結果判明した仕様および品質に基づいて、第2の価格提示を行う。従って、この方法によれば、物品に対する正しい評価を行うことが出来る。また、参画者であるユーザはこの第2の価格提示により、売却するか否かの最終的な選択を行うことになるが、このように、2段階の価格提示を行うことにより、第1の価格提示でユーザが売却しないことに決定すれ

ば、手間のかかる物品の送付および、第2の価格提示を省略することが出来ることから、この方法は、無駄を省いた合理的な方法と言える。

【0017】上記の2段階の価格提示の後、売却するかどうかの最終的な選択を行わせる方法については、売却要望参画者としてユーザを対象に説明したが、ユーザ以外の階層に対しても適用できることはもちろんである。しかし、ユーザに比べて商取引の信用を重んじる卸売業者や小売業者の場合は、第1の価格提示のみで第2の価格提示を省略することも考えられる。

【0018】上記の方法の、各階層毎の価格データベースに代えて、基本価格データベースと各階層毎の価格指数により、価格提示を行なう方法も考えられる。即ち、上記の電子商取引方法において、前記各階層毎の価格データベースに代えて、予め前記物品の前記仕様および前記品質に基づき決定された基本価格データベースと前記各階層毎の価格指数が設けられ、前記各階層毎の価格が、前記基本価格データベースの基本価格データに前記価格指数を乗ずることにより求める方法である。

【0019】上記の方法によれば、価格データとして基本価格データベースのみ用意すればよく、各階層毎の価格データベースを用意することによるデータベース量の増大を回避することができる。

【0020】また、上記の方法に、第1の価格提示の内容が後から確認できるようにする次の方法を追加してもよい。即ち、上記の電子商取引方法において、前記第1の価格提示の際に、前記第1の価格提示を識別する識別情報を提示すると共に、前記第2の価格提示に至る以前であれば、前記識別情報を基に前記第1の価格提示と同一内容の再提示が要求されると、この再提示を行なうことを追加する。

【0021】上記の方法では、前記第1の価格提示の内容を特定するための、シリアル番号等の識別情報を用いることにより、前記第1の価格提示の内容の再提示を可能とするものであるが、上記の方法によれば、第1の価格提示により、ユーザ等の売却要望参画者が売却を躊躇して第2の価格提示を受けることを一旦断念しても、後から再度、第1の価格提示の内容を確認することができ、第2の価格提示を受けることが可能となるので、売却要望参画者の売却再考の機会を与えることができる。この再提示は一定の有効期間内に限り行なうようにしてもよい。また、識別情報を用いることにより、一旦提示した第1の価格提示の内容を、当該売却要望参画者以外の第三者に知られるのを防ぐことができる。

【0022】また、上記の方法に、第2の価格提示のための現物品の前記提供に、エスクロサービスを利用する次の方法を追加してもよい。即ち、上記の電子商取引方法において、前記第2の価格提示のための、前記現物品の前記提供を前記売却要望参画者に指示する際に、前記現物品の確実な返却ないし、売却までの確実な保管を担

保するため、エスクロサービスの使用を指示することを追加する。

【0023】上記の電子商取引方法において、売却要望参画者は、第2の価格提示用の鑑定を受けるために、現物品を仲介センターへ提供する必要があり、その際に、現物品が貴重品であれば、最終的に売却しない場合の返却、または、売却する場合の売却されるまでの保管および換金が、確実に行なわれるか不安を抱くのが一般である。そこで、エスクロサービスを使用する。エスクロサービスとは、当事者間の契約にもとづいて相互に相手に引き渡す義務を負う目的物や金銭を、一定の条件の下に第3者に預託して、この条件が満たされることによって、契約が有効となり、目的物や金銭が受領予定者に引き渡されるサービスをいう。このエスクロサービスを行なう第3者としては、大手の金融機関や、弁護士等が存在する。例えば、現物品を仲介センターへ送付する場合に、最終的に売買が成立することを条件として、現物品を上記の第3者に預託することにより、最終的に売買が成立すれば、売却要望参画者は、売却されるまでの現物品の保管および代金の支払を確実に受けることができ、最終的に売却しない場合は、現物品の返却を確実に受けることができる。従って、上記の方法によれば、エスクロサービスを使用することにより、売却要望参画者の不安を解消することができる。

【0024】また、この2段階の価格提示の後、売却するかどうかの最終的な選択を行わせる上記の方法に続けて、次の方法を用いても良い。それは、前記不売却が検知されると、売却要望参画者に対して不売却理由入力を要求する方法である。このようにすることにより、参画者、特にユーザが売却したくない理由を把握することができ、本発明の電子商取引方法の活性化に資することが出来る。

【0025】また、上記に述べた方法に、次の方法を付加しても良い。それは、前記マッチングが取れない前記売却要望に対し、特定の階層を対とした第1のオークションと、その階層よりも下位の階層を対とした第2のオークションを設ける方法である。

【0026】本発明の電子商取引方法では、仕様および品質に基づいて市場価格が一義的に定まる物品の特性上、通常は売却要望が出れば購入要望が時間を置くことなく現れて売買が成立すると考えられる。しかし、例えば、一定期間を設け、売却要望が登録された後も、その一定期間内に購入要望がない場合に、オークションを行うことは合理的である。そこで本発明の電子商取引方法にもこのオークションを取り入れ、しかも異なる階層を対象とした2段階構成とする。例えば、最初のオークションは、階層が小売業者である参画者間でオークションを行い、そこで売買が成立しなければ次の段階として、階層がユーザである参画者間でオークションを行う。このように、オークションを2段階とすることにより、売

買の成立の可能性を高めることができる。

【0027】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施例につき、図面に基づき詳しく説明する。本発明は、仕様および品質によって市場価格が一義的に定まる特性を有する物品の、特性を生かした電子商取引方法を提供しようとするものであるが、本実施例では、取引の対象としては、ダイヤモンドを用いた宝飾品のダイヤモンドそのものとしている。そして、インターネット上にダイヤモンドの取引マーケットを開設するものである。図1は、本実施例の電子商取引方法に用いられるシステムの構成を模式的に示した構成図である。図1において、インターネット2上に、ダイヤモンドの電子商取引の売却と購入の斡旋を行うホームページを備えた仲介センターサーバ1と、この斡旋を利用してこの取引マーケット上での取引を希望する参画者の使用する、参画者用クライアント端末3が設けられている。参画者用クライアント端末3には、仲介センターサーバ1のホームページをアクセスするために必要なハードウェア、ソフトウェアが備えられている。本実施例では、ダイヤモンドの売却要望または購入要望を別々に、そのダイヤモンドの仕様および品質と共に仲介センターに登録し、仲介センターがこれらの登録を検索照合して、仕様および品質等がマッチングすれば、その売買を成立させるものである。また、参画者は会員として、予め登録するか、あるいは売却要望または購入要望を登録する際に登録するものである。

【0028】図1において、仲介センターサーバ1には、ダイヤモンドの仕様及び品質と価格との対応関係を記録した仕様価格データベース11、当該電子商取引に参画を認められた参画者を記録した会員データベース17、会員のダイヤモンド売却要望を登録する売却要望登録エリア12、同じく購入要望を登録する購入要望登録エリア13、これらの登録処理を行う登録処理プログラム14、登録された売却要望と購入要望とのマッチングを図るマッチング処理プログラム15、および、このマッチングが成立しない場合に行われるオークションの処理を行うオークション処理プログラム16が備えられている。これらのデータベースやプログラムは、仲介センターサーバ1のホームページを、参画者用クライアント端末3からアクセスすることにより利用できる。

【0029】本実施例では、会員データベース17に登録されて記録されている参画者には、その属性として取引形態による階層種別が付与されている。その階層種別には、ダイヤモンドの卸売業者、小売業者およびダイヤモンドの一般消費者であるユーザの3種類があり、これらをそれぞれS1、S2およびS3と表記する。また、本実施例におけるダイヤモンドの取引形態としては、卸売業者S1から小売業者S2へ売却する卸売、小売業者S2からユーザS3へ売却する小売およびユーザS3から卸売業者S1へ売却するユーザ売の3種類を想定して

いる。

【0030】図2は、仲介センターサーバ1に備えられている仕様価格データベース11の構成を示したものである。ダイヤモンドの仕様および品質は細部に渡って決められており、その項目も多岐にわたるが、本実施例では説明を簡便に行えるようにするため、仕様および品質に関する項目は、シェイプ、カット、クラリティ、カラーおよびカラットの5項目を採用している。図2から分かる通り、本実施例では、上記の5項目の仕様および品質で定まる個別のダイヤモンドの仕様および品質を表す指標として、仕様No.を設定している。従ってダイヤモンドの仕様および品質を基に、仕様価格データベース11を検索することにより、仕様No.が決定され、逆に、仕様No.が分かれば、仕様価格データベース11により、そのダイヤモンドの細部に渡る仕様と品質が明確になる。

【0031】また、各仕様No.に該当するダイヤモンドには、特定の基本価格が対応している。この基本価格は、ダイヤモンドの世界的な相場とも言えるもので、例えば、アメリカのニューヨークで発行されている Rapaport Report 等で公表されており、比較的安定している価格といわれている。また、ダイヤモンドが、前述した、卸売、小売またはユーザ売のどの流通過程で取引されるかによって価格は異なり、この流通過程の種類に対応させた価格を設定しておく必要があるが、本実施例では、この流通過程における売却者の階層種別に対応させた価格指数を設定することにより、これらの価格を決定する仕組みとしている。つまり、各流通過程における価格は、基本価格に、該当する価格指数を乗じることにより求められる。これによると、具体的には、例えば、図2において、仕様No.1 該当のダイヤモンドの卸売の価格は、基本価格BP1に卸売の売却者の階層種別、即ち、卸売業者S1用の価格指数であるC11を乗じて求められる。従って、上記の説明から分かる通り、仕様価格データベース11に基づく限り、ダイヤモンドの市場価格は、仕様および品質に基づいて一義的に定まることになる。

【0032】上記では、図2から分かる通り、売却者の階層種別のみならず、仕様No.で決定される仕様および品質も、価格指数の形成要素としているが、売却者の階層種別のみ、即ち、卸売業者、小売業者またはユーザのみを形成要素としてもよい。この場合は、価格指数は3種類のみとなる。例えば、基本価格は小売価格とし、小売価格指数を1.00、卸売価格指数を0.85、ユーザ売価格指数を0.60とする。あるいは、例えば、Rapaport Report における価格の変動率等の相場変動要素を、価格指数の形成要素に、加味してもよい。あるいは、Rapaport Report の価格そのものを基本価格として、相場変動を基本価格に盛り込んでもよい。上記に述べたこれらの場合には、価格データとして基本価格のデ

データベースのみ用意すればよく、各階層毎の価格データベースを用意することによるデータベース量の増大を回避することができる。

【0033】次に、本実施例における電子商取引方法について、具体的に説明する。本実施例における電子商取引方法は、大きく4つの部分に分けられる。それは、売却要望登録処理、購入要望登録処理、売却・購入要望マッチング処理、および、オークション処理である。これらの内、売却要望登録処理と購入要望登録処理は、仲介センターサーバ1に備えられた登録処理プログラム14で処理され、売却・購入要望マッチング処理はマッチング処理プログラム15で処理され、そして、オークション処理は、オークション処理プログラム16で処理される。次に、これらの各々の処理について説明する。

【0034】まず、売却要望登録処理について説明する。図5は、この処理を説明したフローチャートであり、この処理は大きく分けて第1段階と第2段階とに分かれる。第1段階は、売却するか否かの目安をユーザに判断してもらうためのものであり、第2段階は、当該物品が申告通りの仕様および品質を有することを客観的に確認するためのものである。尚、本明細書において、フローチャートに付記されたSを冠した数字は、ステップ番号を表す。図5において、第1段階(S11)は、参画者の申告に基づいて決定された仕様No.に基づき初回価格提示を行い、これに基づき売却是非仮選択を行わせるプロセスである。これに対して、第2段階(S17)は、この第1段階で売却要望仮登録が行われた(S12)場合に用いられ、仲介センターへ送付された(S13)ダイヤモンドの現物を鑑定人が鑑定して、判明した仕様および品質に基づいて(S14、S15)決定された仕様No.に基づき最終価格提示を行い、これに基づき売却是非最終選択を行わせるプロセスである。図3は、この売却要望登録処理に伴い売却要望が登録される売却要望登録エリア12の構成を示した図であり、このうち図3(b)は、第1段階終了時の状態を表し、図3(c)は、第2段階開始前の状態を表し、そして、図3(a)は、第2段階終了時で、売却要望登録が正式に登録されている状態を表す。図3(a)に示すように、売却要望登録エリア12は、登録項目が、登録No.、会員No.、階層種別、仕様No.および登録日で構成されている。登録No.の個々の数字に冠されたSは、SALEの頭文字である。

【0035】次に、売却要望登録処理第1段階について説明する。図6はこの第1段階を説明したフローチャートである。図6において、ダイヤモンドの売却要望を有する参画者、例えば一般消費者であるユーザが、参画者用クライアント端末3を介して仲介センターサーバ1のホームページをアクセスし、売却要望登録処理を選択すると、仲介センターサーバ1は当該電子商取引マーケットを利用する資格を有する会員か否かを問うので(S2

1)、会員でなければ会員登録した後、会員であればすぐに会員No.を入力する(S23)。ここで、会員登録をすると、会員データベース17へ登録処理を行うが、この際、当該参画者の階層種別、即ち、卸売業者S1、小売業者S2またはユーザS3を付記する。例えば、ユーザに該当する参画者は、会員No.14で階層種別S3の参画者というように会員登録される。以下、売却要望登録処理の説明には、売却要望登録を行う参画者として、会員No.14で階層種別がS3のユーザ(以下当該ユーザと称する)を用いる。会員No.入力終了すると(S23)、仕様No.決定(S24)に移る。この仕様No.決定は、当該ユーザが売却を希望するダイヤモンドの仕様および品質が、仕様価格データベース11のどの仕様No.のダイヤモンドに該当するかを決定するものである。図7はこの決定方法を説明したフローチャートである。

【0036】図7において、当該ユーザに対して仕様価格データベース11の仕様および品質の項目が順番に問われる(S41~S45)。この際、当該ユーザが回答する画面には当該項目のすべてのランクが表示されるので、当該ユーザはその中から適合するものを選択するだけで回答が完了する仕組みになっている。すべての項目に回答すると、仲介センターサーバ1は仕様価格データベース11を検索して仕様No.を決定する(S46)。例えば、当該ユーザが、上記の仕様および品質の項目に対して順番に、シェイプはラウンド、カットはグッド、クラリティはD、カラーはE、そしてカラットは0.700と回答すると、仲介センターサーバ1は図2の仕様価格データベース11を検索して仕様No.136と決定する。

【0037】このようにして仕様No.が決定すると、図6において、この仕様No.136と当該ユーザの階層種別S3により、仲介センターサーバ1は図2の仕様価格データベース11から、基本価格としてBP136を、また、価格指数としてC1136を抽出し、これにより初回価格を、BP136にC1136を乗じた額と決定し(S25)、この初回価格を初回価格提示として表示する(S26)。当該ユーザはこの初回価格により、売却是非仮選択を行い(S27)、不売却を選択すると、不売却理由を尋ねる画面となり、当該ユーザの不売却理由を収集して(S31)終了する。売却是非仮選択(S27)で売却を選択すると、売却要望登録エリア12に売却要望仮登録が行なわれる(S28)。例えば売却要望登録が140番目まで登録されている場合、当該ユーザが、売却是非仮選択(S27)で売却を選択すると、141番目に登録され、図3に示すように登録される。即ち、登録が仮であることを表すために、図3(b)に示すように、登録No.と仕様No.とにアスタリスク*を付与する。仕様No.にアスタリスク*を付与するのは、参画者の申告に基づき決定された仕様No.であることを示

している。ここで仮登録が終了すると、当該ユーザに対して登録No.を表示する(S29)と共に、当該ユーザに該当のダイヤモンドを仲介センターに送付するよう依頼する(S30)。

【0038】この、ダイヤモンドの仲介センターへの送付依頼を受けて、当該ユーザは売却を希望するダイヤモンドの現物を、仲介センターへ送付する必要があるが生じるが、ダイヤモンドの現物は貴重品であるところから、鑑定を受けても最終的に売却しない場合に確実に返却してもらえるか、あるいは、最終的に売却する場合に、売却されるまでの保管および換金が確実に行なわれるか、当該ユーザが不安を抱くのが一般である。そこで、これらの不安を解消すべく、ダイヤモンドの現物の送付を行うのに際して、エスクロサービスを使用する。エスクロサービスとは、当事者間の契約にもとづいて相互に相手に引き渡す義務を負う目的物や金銭を、一定の条件の下に第三者に預託して、目的物に瑕疵のないことが確認される等の条件が満たされることによって、契約が有効となり、目的物や金銭が受領予定者に引き渡されるサービスをいう。このエスクロサービスを行なう第三者としては、大手の金融機関や、弁護士等が存在する。本実施例の電子商取引方法においては、例えば、ダイヤモンドの現物を仲介センターへ送付する場合に、最終的に売買が成立することを条件として、ダイヤモンドの現物を上記の第三者に預託することにより、最終的に売買が成立すれば、当該ユーザは、代金の支払を確実に受けることができ、最終的に売却しない場合は、ダイヤモンドの現物の返却を確実に受けることができる。そのために、前述のダイヤモンドの仲介センターへの送付依頼の際に、エスクロサービスを使用する旨の指示が、当該ユーザに対して行なわれる。

【0039】前述の通り、図5において、当該ユーザが該当のダイヤモンドを仲介センターに送付する(S13)と、仲介センターへ送付されたダイヤモンドの現物を鑑定人が鑑定して判明した仕様および品質に基づいて、仲介センターが仕様価格データベース11を検索して新しい仕様No.を決定し(S14)、前述の売却要望仮登録に反映する(S15)。即ち、図3(c)に示すように、仕様No.を新しく決定された仕様No.と置き換えると共に、付記されているアスタリスク*を削除する。例えば、鑑定により判明した仕様および品質に基づいて決定された新仕様No.が、仮登録時と全く同じ場合、図3(c)において、アスタリスク*が削除されたのみで、実際の仕様No.は同じとなる。仲介センターが上記の処理を終えると、鑑定終了の通知を当該ユーザにEメール等で通知する(S16)。

【0040】次に、売却要望登録処理第2段階(S17)について説明する。この第2段階は、鑑定に基づく仕様No.により決定された価格を提示すると共に、売却是非最終選択を行わせるプロセスである。図8はこの第

2段階を説明したフローチャートである。図8において、上記で、鑑定終了の通知を受けた当該ユーザは、参画者用クライアント端末3から会員No.と登録No.を入力する(S51、S52)。すると、仲介センターサーバ1は、売却要望登録エリア12から当該売却要望登録データを取り出して(S53)、置き換えられた新仕様No.に基づき、仕様価格データベース11により第1段階と同様にして最終価格を決定し(S54)最終価格提示を行う(S55)。当該ユーザはこの最終価格により、売却是非最終選択を行う(S56)。当該ユーザが不売却を選択すると、売却要望登録エリア12の売却要望仮登録を抹消した後(S58)、不売却理由を尋ねる画面となり、当該ユーザの不売却理由を収集して(S59)終了する。当該ユーザが売却を選択すると、売却要望登録エリア12の売却要望仮登録を売却要望正式登録に変更する(S57)具体的には、図3(c)における登録No.に付記されているアスタリスク*を削除することにより、仮登録の表示を抹消し、図3(a)に示す状態にして最終登録する。

【0041】上記の売却要望登録処理の方法は、売却するか否かの目安をユーザに判断してもらうための第1段階と、当該物品が申告通りの仕様および品質を有することを客観的に確認するための第2段階の2段階で構成されていることから、ユーザは、ダイヤモンドを予め仲介センターに送るという煩雑で危険な手間をかけること無しに、売却価格を知ることができ、ユーザにとって好都合であると共に、第1段階でユーザが売却しないことに決定すれば、手間のかかる第2段階を省略することが出来ることから、仲介センターにとっても、無駄を省いた合理的な方法である。また、第1段階または第2段階でユーザが不売却を選択すると、不売却理由を収集するように構成されているので、ユーザが売却したくない理由を把握することができ、電子商取引方法の活性化を図ることができる。

【0042】この2段階で構成されている売却要望登録処理の方法は、ユーザ以外の階層に対しても適用できることはもちろんであるが、ユーザに比べて商取引の信用を重んじる卸売業者や小売業者の場合は、第1段階のみで第2段階を省略してもよい。場合によっては、第2段階のみとする方法も考えられる。

【0043】次に、購入要望登録処理について説明する。図9は、この購入要望登録処理を説明したフローチャートであり、図4は、この購入要望登録処理に伴い購入要望が登録される購入要望登録エリア13の構成を示した図である。図9において、売却要望登録処理第1段階と同様に、参画者が参画者用クライアント端末3を介して仲介センターサーバ1のホームページをアクセスすることにより、購入要望登録処理を選択すると、仲介センターサーバ1は当該電子商取引マーケットを利用する資格を有する会員か否かを問うので(S71)、会員で

なければ会員登録した後(S72)、会員であればすぐに会員No.を入力すると(S73)、次に、仕様No.決定(S74)に移る。この仕様No.決定は、売却要望登録処理第1段階と全く同様であり、その内容は図7に示されている。仕様No.が決定されると、購入要望登録エリア13に購入要望が登録される(S75)。図4は、この購入要望登録エリア13の構成を示したものである。図4に示すように、購入要望登録エリア13は、登録項目が、登録No.、会員No.、階層種別、仕様No.および登録日で構成されている。登録No.の個々の数字に冠されたBは、BUYの頭文字である。

【0044】次に、売却・購入要望マッチング処理について説明する。前述のように、売却要望登録エリア12と購入要望登録エリア13には、それぞれダイヤモンドの売却要望と購入要望とが登録されているが、この売却・購入要望マッチング処理は、ダイヤモンドの市場価格がその物品の仕様および品質に基づいて一義的に定まるので、仕様および品質にのみ基づいて商取引を行うことが可能である点に注目して、売却要望と購入要望とのマッチングを図るものである。

【0045】ところで、取引市場においては、取引規模によって、卸売業者、小売業者、ユーザの3種類の階層が存在し、これらの階層間の売買は、商取引慣習上、売買の相手先が特定の階層に限定されている。即ち、通常の取引としては、売却は、卸売業者から小売業者への卸売と、小売業者からユーザへの小売とに分けて行うことが遵守されており、価格もこれらの売却ルートによって異なる価格が設定されている。そこで、本実施例の電子商取引方法においても、商取引慣習を遵守するために、この仕組みを反映することが必要であるが、その方法として、前述の、登録されている売却要望と購入要望に、それぞれ売却要望者と購入要望者の階層種別が記録されていることを利用する。即ち、ダイヤモンドの取引形態としては、卸売業者S1から小売業者S2へ売却する卸売、小売業者S2からユーザS3へ売却する小売、および、ユーザS3から卸売業者S1へ売却するユーザ売の3種類を設定する。つまり、卸売は売主が卸売業者S1で買主が小売業者S2であり、小売は売主が小売業者S2で買主がユーザS3であり、そしてユーザ売は売主がユーザS3で買主が卸売業者S1である。そして、ダイヤモンドの仕様および品質が一致した、即ち、仕様No.が一致した売却要望と購入要望の間で、これらの売主と買主の階層種別が上記の組み合わせのいずれかと一致する場合にのみ、売買の成立を認める仕組みとする。

【0046】図10は、この売却・購入要望マッチング処理を説明したフローチャートである。図10において、仲介センターサーバ1は、売却要望登録エリア12から、売却要望正式登録1件分を取り出し(S81)、次に、購入要望登録エリア13から、購入要望登録1件分を取り出し(S82)、これらの仕様No.の一致の有

無をチェックして(S83)、一致すれば、次に、これらの階層種別をチェックして売主と買主の階層種別が、設定された上記の組み合わせとマッチングするか否かを判定し(S84)、マッチングすれば、売買を成立させて、売却要望登録と購入要望登録に、売買成立の旨を付記する(S86)。これは、図3および図4には図示されていない。そして、売買成立の旨を当該売却要望と購入要望を登録した参画者に連絡する(S87)。S83で一致しないかまたはS84でマッチングしなければ、購入要望登録について、すべて照合チェックを終了したか否かを判断し(S85)、終了していなければ、次の購入要望登録を取り出して、同様にチェックを行う。購入要望登録についてのすべての照合チェックを終了すると、売却要望登録について、すべて照合チェックを終了したか否かを判断し(S88)、終了していなければ、フローチャートの最初に戻り、次の売却要望登録を取り出すと共に、上述したのと同様の処理を行う。

【0047】この売却・購入要望マッチング処理を、以下、図3(a)と図4をもとに、例をあげて説明する。まず、登録No. S-003の売却要望登録と登録No. B-002の購入要望登録とは、仕様No.が6で同じであり、且つ、売却要望登録の階層種別がS1で購入要望登録の階層種別がS2であるので、取引形態は卸売業者S1から小売業者S2への売却であり、卸売に該当するから、この売却要望と購入要望との間で売買を成立させる。また、登録No. S-006の売却要望登録と登録No. B-005の購入要望登録とは、仕様No.が18で同じであり、且つ、売却要望登録の階層種別がS2で購入要望登録の階層種別がS3であるので、取引形態は小売業者S2からユーザS3への売却であり、小売に該当するから、この売却要望と購入要望の間でも売買を成立させる。また、登録No. S-141の売却要望登録と登録No. B-125の購入要望登録とは、仕様No.が136で同じであり、且つ、売却要望登録の階層種別がS3で購入要望登録の階層種別がS1であるので、取引形態はユーザS3から卸売業者S1への売却であり、ユーザ売に該当するから、この売却要望と購入要望の間でも売買を成立させる。この場合の価格は、図2の仕様価格データベース11において、仕様No. 136の基本価格BP136にS3の価格指数C3136を乗じることにより求められるが、この価格は、卸売業者が購入する価格であり、商取引慣習上、適正に設定されているものである。従って、S-141の売却要望を登録した会員No. 14のユーザは、質屋を利用した場合に著しく低くしか価格評価されないのとは比べると、本実施例の電子商取引方法を利用することに大きなメリットがあるといえる。

【0048】上述の通り、本実施例ではダイヤモンドの仕様および品質にのみ基づいてその価格が定まるため、一般消費者であるユーザが売却要望者であっても、売却の価格が、ダイヤモンドの仕様および品質を反映した適

正な価格に維持されるので、質屋を利用した場合に著しく低くしか価格評価されないのと比べると有利に売却でき、この方法はユーザにとってメリットの大きい取引方法であるといえる。

【0049】最後に、オークション処理について説明する。これは、登録された売却要望が、購入要望とマッチングが取れない場合に、ネット上でオークションを行うものである。オークションを行うか否かの判断は、例えば、一定期間を設け、売却要望の登録後、その一定期間内に購入要望がない場合に、オークションを行う等の方法が考えられる。具体的な例としては、図3(a)において、売却要望登録エリア12には売却要望の登録日が記録されているが、この登録日から3ヶ月を経過して尚、当該売却要望に対応する購入要望が現れない場合にオークションを行う等である。このほか、取引マーケットの活性化を図るために、このような条件を満たさない場合にも、オークションを行う方法も考えられる。このオークションは、異なる階層を対象とした2段階のもので、例えば、最初に小売業者S2を対象としたオークションを開催し、このオークションで売買が成立しない場合に、ユーザS3を対象としたオークションを開催する。このように、オークションを2段階とすることにより、売買の成立の可能性を高めることができる。

【0050】上記の本実施例では、売却要望登録処理第1段階で、図6において、売却是非仮選択で売却を選択すると(S27)、売却要望登録処理第2段階、即ち、ダイヤモンドの現物の鑑定に基づく最終価格提示を受けられなくなるが、最終価格提示を受けることを一旦断念しても、後から再度、初回価格提示の内容を確認することができ、最終価格提示を受けることを可能とする方法も考えられる。以下、この方法について説明する。図11は、この方法における、売却要望登録処理の全体を示したフローチャートであり、図12は、売却要望登録処理第1段階を示したフローチャートである。

【0051】図11は、図5とほとんど同じであり、売却要望登録処理第1段階として、図6にその内容を示したS11の代わりに、図12にその内容を示したS11Aを用い、且つ、これに適合させるために、S12の代わりにS12Aを用いた点が異なるだけである。図12において、ダイヤモンドの売却要望を有する、例えば、当該ユーザが、初回価格提示を受けるまでの手続処理フローは、図6のフローチャートの、S21～S26とはほぼ同じである(S91～S97、但し、S94はNOとする)。仲介センターサーバ1は、初回価格提示を行った後、売却要望仮登録を行ない(S98)、当該ユーザに対して登録No.を表示する(S99)。但し、ここで提示される初回価格提示の内容には、図示されていないが、例えば、2週間等の有効期間が設けられ、その旨表示される。そして、当該ユーザに対して売却是非仮選択を要請し(S100)、売却が選択されると、当該ユー

ザに該当のダイヤモンドを仲介センターに送付するよう当該ユーザに依頼して売却要望登録処理第1段階を終了する。(S101)。売却是非仮選択(S100)で売却が選択されると、図6のフローチャートと同様、売却理由を尋ねる画面となり、当該ユーザの売却理由を収集して(S105)終了する。但し、この場合、当該ユーザが、再度、初回価格提示の内容を確認したい場合、再度、図12のフローチャートの先頭からの手続処理フローに従って手続を行う(S91～)。そして、会員No入力の後(S93)、初回価格再提示の要求をするか否かが問われるので(S94)、YESを選択して、初回価格提示の際表示された登録No.を入力すると(S102)、当該再確認時期が既に提示を受けた初回価格提示の内容の有効期間内であれば(S103)、初回価格の再提示が行なわれる(S104)。その後は、初回価格提示を受けた場合と全く同様である(S100～)。当該再確認時期が、既に提示を受けた初回価格提示の内容の有効期間内でない場合は(S103)、仲介センターサーバ1は、売却要望仮登録を抹消して終了する(S106)。売却是非仮選択(S100)で売却が選択されると、図11において、売却要望登録処理第1段階S11Aから、S12A(YESとなる)を経由して売却要望登録処理第2段階S17に至り、図8に示す売却要望登録処理第2段階の内容から分かる通り、最終価格提示を受けることができる。

【0052】上記の方法によれば、売却要望登録処理第1段階における初回価格提示により、例えば、ユーザが売却を躊躇して最終価格提示を受けることを一旦断念しても、後から再度、初回価格提示の内容を確認することができ、売却要望登録処理第1段階に進んで最終価格提示を受けることが可能となるので、ユーザの売却再考の機会を与えることができる。また、登録No.を用いることにより、一旦提示した初回価格提示の内容を、このユーザ以外の第三者に知られるのを防ぐことができる。

【0053】また、上記の本実施例では、売却要望と購入要望とのマッチングを図る条件として、商取引慣習を遵守する観点から、異なる階層間の取引形態を、卸売業者S1から小売業者S2へ売却する卸売、小売業者S2からユーザS3へ売却する小売、および、ユーザS3から卸売業者S1へ売却するユーザ売の3種類としている。しかし、これらの3種類の取引形態に加えて、商取引慣習上認められる上記の階層間以外の商取引の仲介を可能とするために、卸売業者から一旦購入した上でユーザへ売却するための小売業者の役割を担うと共に、ユーザから一旦購入した上で小売業者へ売却するための卸売業者の役割を担う、仲介センターの付属店舗を、前記ネットワーク上に設ける方法も考えられる。

【0054】この方法では、仲介センターの付属店舗が、卸売業者からの売却を受けてユーザへ売却し、あるいは、ユーザから売却を受けて小売業者へ売却すること

により、商取引慣習を遵守しつつ、商取引慣習上認められる階層間以外の前記商取引を仲介することができるので、商取引慣習を遵守する姿勢を参画者に与えることができ、上記の電子商取引方法による商取引に信頼感を与えることができる。また、売却要望と購入要望とのマッチングがすぐに取れない場合に、とりあえず、仲介センターの付属店舗が売却を受けておくこともでき、参画者の要望に広く応えることができる。

【0055】また、上記の本実施例の取引形態に、不良在庫処分に対処する取引形態を加える方法も考えられる。即ち、上記の本実施例の取引形態に、不良在庫処分のために、ユーザ売の売却価格を適用する卸売業者間の取引形態、および、卸売の売却価格を適用する小売業者間の取引形態を加える方法である。

【0056】不良在庫処分のための取引は、ノーマルな取引形態ではないが、自由主義経済の構造上、現実には存在することから、これらの取引における価格等を、上述したような不良在庫処分のための条件に合わせることで、同階層間の商取引であっても商取引慣習に反しないようにすることができると共に、本実施例の電子商取引方法に柔軟性を与えることができる。

【0057】上記の本実施例では、電子商取引の対象となる物品をダイヤモンドとしているが、本発明の対象物品はこれに限られず、仕様および品質によって市場価格が一義的に定まる特性を有する物品であれば、どのようなものでもよい。

【0058】

【発明の効果】請求項1記載の電子商取引方法によれば、物品の仕様および品質にのみ基づいてその物品の価格が定まるため、一般消費者であるユーザが売却要望者であっても、売却の価格が、物品の仕様および品質にのみ基づく適正な価格に維持されるので、質屋を利用した場合に著しく低くしか価格評価されないのと比べると、有利に売却できる利点がある。また、売却要望および購入要望の登録を受け付ける際に、これらの要望者の階層種別も同時に合わせて登録するので、この階層種別に基づき売却ルートを設定でき、商取引慣習の遵守を維持することが出来る。また、インターネット等の情報ネットワークを利用しているので、アクセスすることによって、誰でも容易に且つスムーズな取引が可能で、そのため多くの人が参画したネットワークの構築が出来るので、広範囲に渡る取引を行うことが可能となる。

【0059】請求項2記載の電子商取引方法によれば、商取引慣習上認められる階層間商取引を明確にすることができ、且つ、商取引慣習を遵守しつつ、商取引慣習上認められる階層間以外の前記商取引を仲介することができるので、商取引慣習を遵守する姿勢を参画者に与えることができ、上記の電子商取引方法による商取引に信頼感を与えることができる。また、売却要望と購入要望とのマッチングがすぐに取れない場合に、とりあえず、仲

介センターの付属店舗が売却を受けておくこともでき、参画者の要望に広く応えることができる。

【0060】請求項3記載の電子商取引方法によれば、不良在庫処分に対処するという条件付で、卸売業者間、および、または、小売業者間の商取引を認めるので、この商取引における価格等を、上記条件に合わせることで、同階層間の商取引であっても商取引慣習に反しないようにすることができるとともに、上記の電子商取引方法に柔軟性を与えることができる。

【0061】請求項4記載の電子商取引方法によれば、この電子商取引の参画者が売却要望を登録するのに先立って、参画者の申告内容により定まる第1の価格提示と、現物の鑑定により定まる第2の価格提示の2段階の価格提示を行う。そのため、第1の価格提示が行われることにより、参画者が、売却価格を知るために物品を送付するという煩雑な手間をかけること無しに、売却価格を知ることができる。また、第1の価格提示でユーザが売却しないことに決定すれば、煩雑で手間のかかる物品の送付および第2の価格提示を省略することが出来るので、無駄を省いた取引方法が構築でき、また、第2の価格提示を行うことにより、物品に対する正しい評価を行うことができる取引方法が構築できる。

【0062】請求項5記載の電子商取引方法によれば、価格データとして基本価格データベースのみ用意すればよく、各階層毎の価格データベースを用意することによるデータベース量の増大を回避することができる。

【0063】請求項6記載の電子商取引方法によれば、第1の価格提示により、ユーザ等の売却要望参画者が売却を躊躇して第2の価格提示を受けることを一旦断念しても、後から再度、第1の価格提示の内容を確認することができ、第2の価格提示を受けることが可能となるので、売却要望参画者の売却再考の機会を与えることができる。

【0064】請求項7記載の電子商取引方法によれば、売却要望参画者は、第2の価格提示を受けるための鑑定のために、現物品を仲介センターへ提供する必要があり、その際に、現物品が貴重品であれば、最終的に売却しない場合の返却、または、売却する場合の売却されるまでの保管および換金が確実に行なわれるか不安を抱くのが一般であるが、エスクロサービスを使用することにより、この売却要望参画者の不安を解消することができる。

【0065】請求項8記載の電子商取引方法によれば、売却要望を有する参画者の不売却が検知されると、不売却理由入力を集集するので、参画者、特にユーザが売却したくない理由を把握することができ、電子商取引の活性化を図ることができる。

【0066】請求項9記載の電子商取引方法によれば、異なる階層を対象とした2段階のオークションを設けているので、売買の成立の可能性を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例の電子商取引方法に用いられるシステムの構成を示した概念図

【図2】仕様価格データベースの構成図

【図3】(a)は、売却要望登録エリアの構成図を示し、(b)は、売却要望登録エリアの仮登録時の構成図を示し、(c)は、売却要望登録エリアの鑑定結果反映時の構成図を示す。

【図4】購入要望登録エリアの構成図

【図5】売却要望登録処理を示したフローチャート

【図6】売却要望登録処理第1段階を示したフローチャート

【図7】仕様No. 決定処理を示したフローチャート

【図8】売却要望登録処理第2段階を示したフローチャート

【図9】購入要望登録処理を示したフローチャート

【図10】売却・購入要望マッチング処理を示したフローチャート

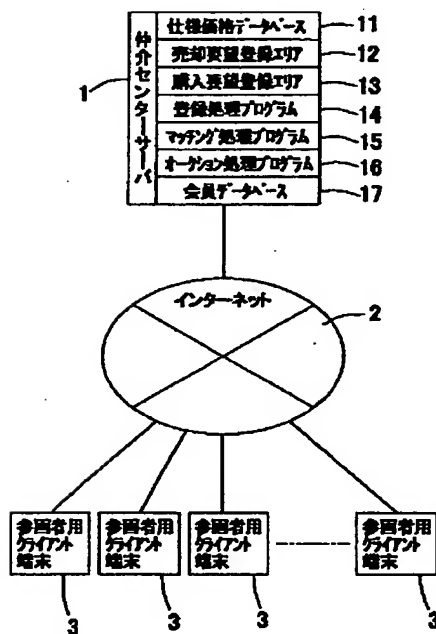
【図11】売却要望登録処理の他の例を示したフローチャート

【図12】売却要望登録処理の他の例における売却要望登録処理第1段階を示したフローチャート

【符号の説明】

- 1 仲介センターサーバ
- 2 インターネット
- 3 参画者用クライアント端末
- 11 仕様価格データベース
- 12 売却要望登録エリア
- 13 購入要望登録エリア
- 14 登録処理プログラム
- 15 マッチング処理プログラム
- 16 オークション処理プログラム
- 17 会員データベース
- S1 卸売業者
- S2 小売業者
- S3 ユーザ

【図1】



【図2】

仕様No.	仕様及び品質					基本価格	価格指数		
	タイプ	カト	クオリティ	カラー	クォリ		S1	S2	S3
1	ラウンド	グレート	F	D	1.100	BP1	C11	C21	C31
2	ラウンド	グレート	IF	G	0.900	BP2	C12	C22	C32
3	ラウンド	エクセレント	VVS1	H	0.500	BP3	C13	C23	C33
...
6	ラウンド	グレート	VVS1	E	0.800	BP6	C16	C26	C36
...
18	ラウンド	グレート	VVS2	F	1.200	BP18	C118	C218	C318
...
138	ラウンド	グレート	D	E	0.700	BP138	C1138	C2138	C3138
...

【図4】

登録No.	会員No.	所属種別	仕様No.	登録日
B-001	54	S2	4	99-06-02
B-002	132	S2	6	99-07-11
B-003	354	S3	39	99-08-03
B-004	421	S3	7	99-08-26
B-005	53	S3	18	99-10-07
B-006	281	S2	64	99-10-11
B-007	34	S2	291	99-11-02
...
B-125	68	S1	138	00-03-10
...

【図3】

登録No.	会員No.	所属種別	仕替No.	登録日
S-001	13	S3	S4	99-06-01
S-002	142	S3	S4	99-07-14
S-003	233	S1	S1	99-07-23
S-004	45	S1	S1	99-08-16
S-005	315	S1	S1	99-09-21
S-006	113	S2	S2	99-10-07
S-007	256	S1	S1	99-10-13
S-141
S-140	38	S2	S2	00-02-18
S-141	14	S3	S3	00-03-14

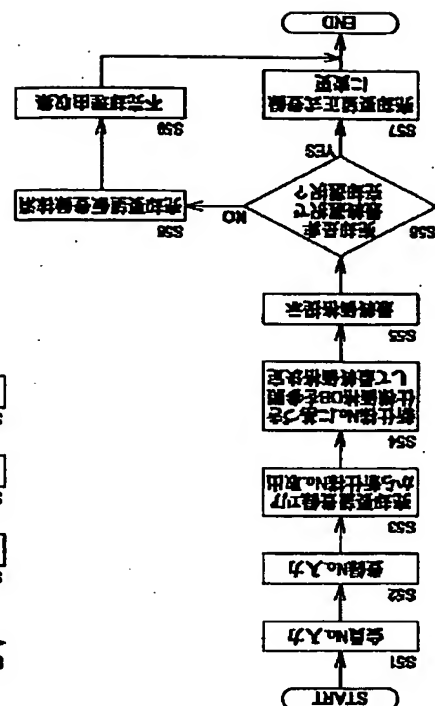
(b)

S-141
S-140	38	S2	S2	00-02-18
S-141	14	S3	S3	00-03-14

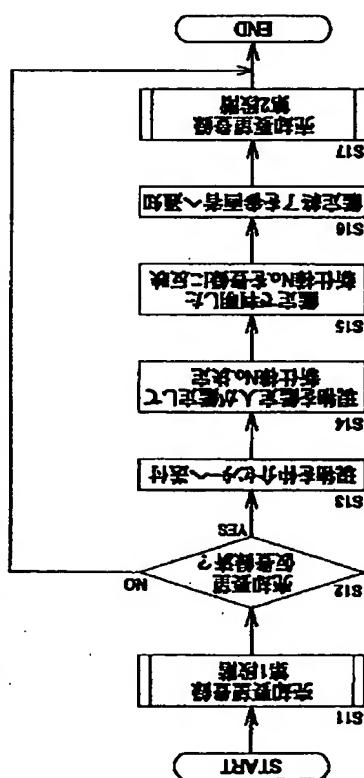
(c)

S-141
S-140	38	S2	S2	00-02-18
S-141	14	S3	S3	00-03-14

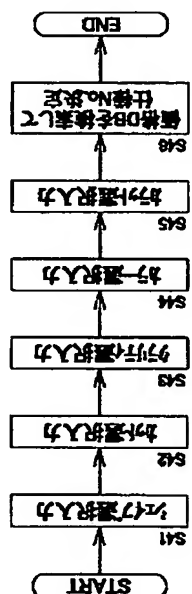
【図8】



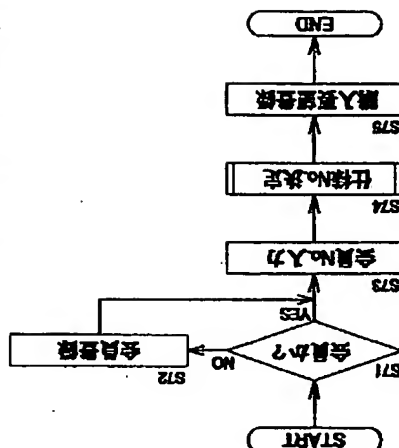
【図5】



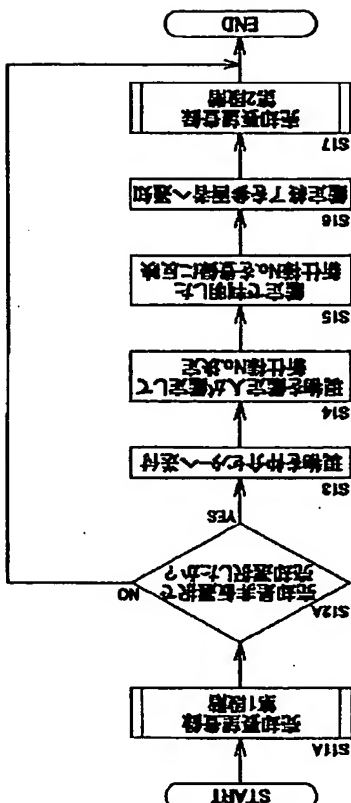
【図7】



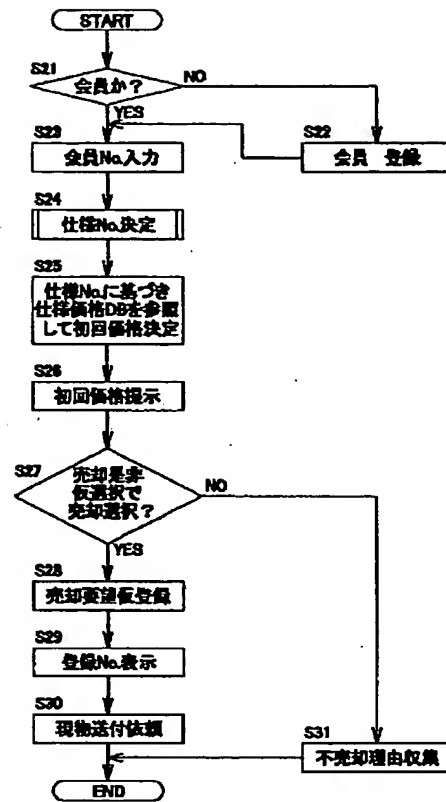
【図9】



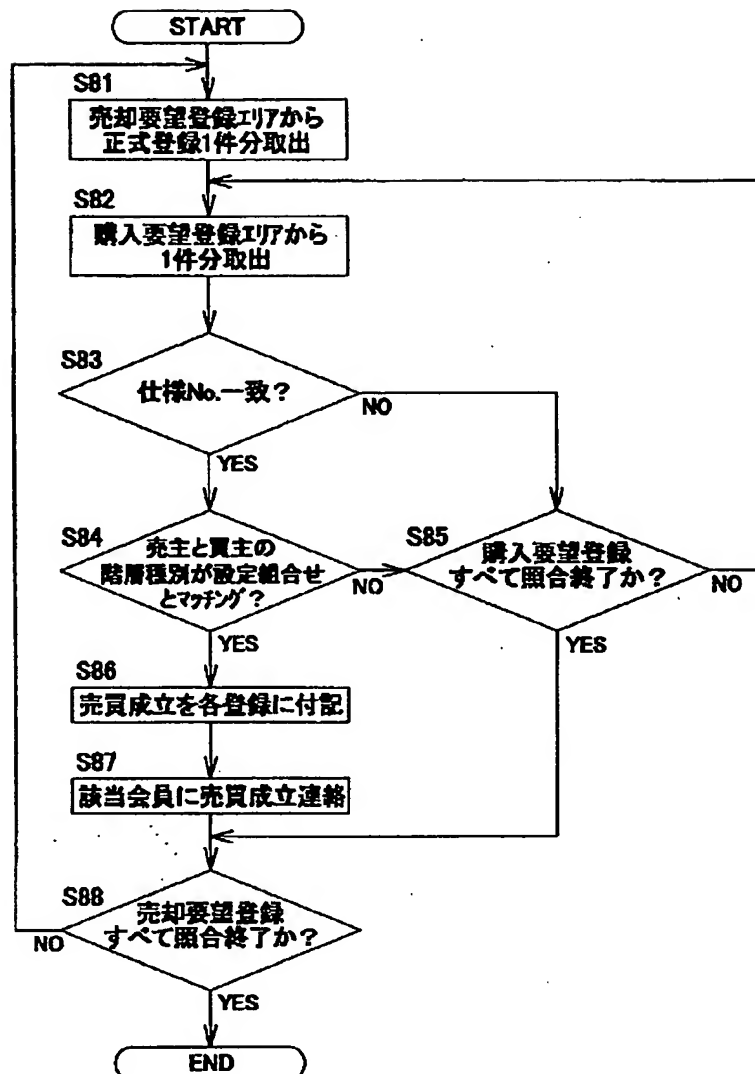
【図11】



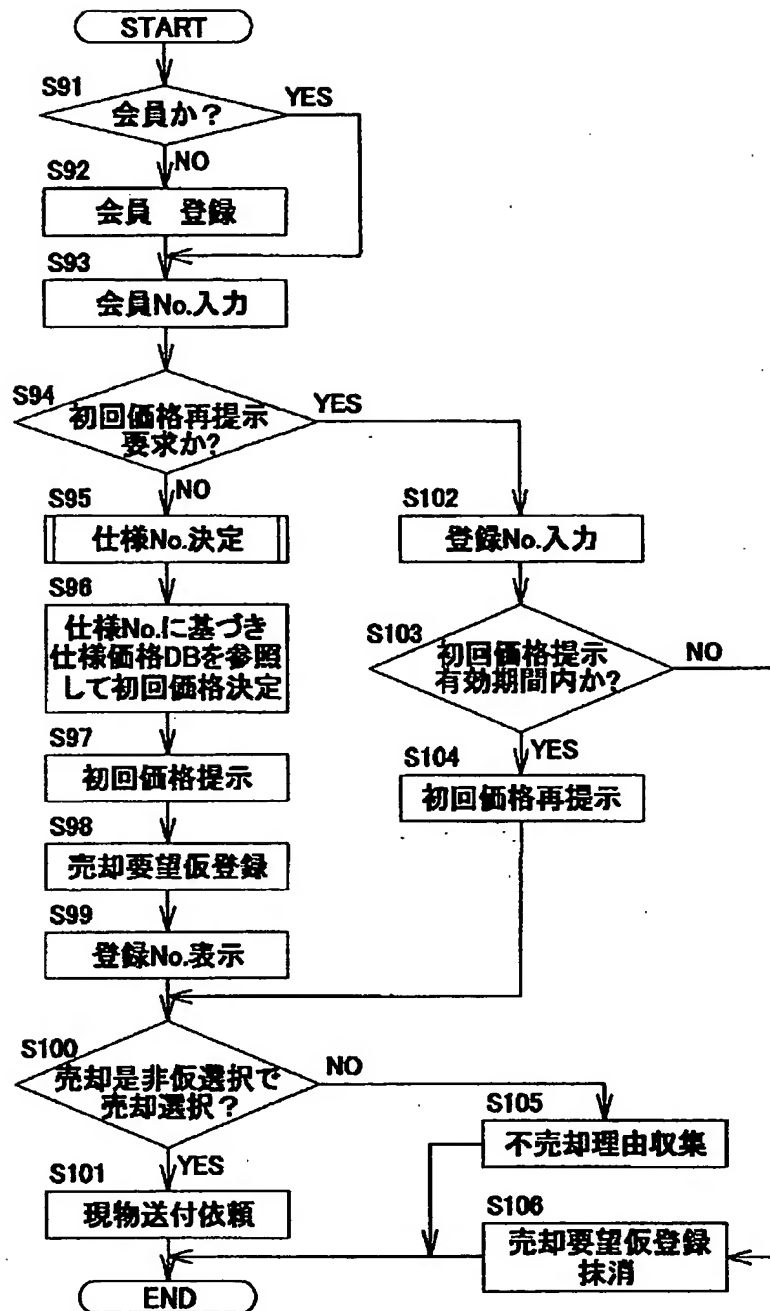
【図6】



【図10】



【図12】



フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁷
G 0 6 F 17/60識別記号
3 3 0F I
G 0 6 F 17/60

ページ (参考)

3 3 0